

永田町新潮流 平沢勝栄

# 俺がやらねば



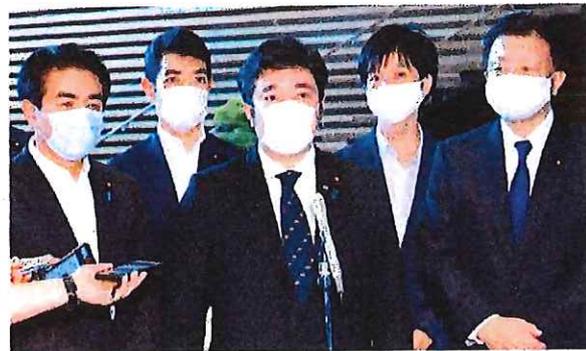
国内で新型コロナウイルスの感染者が出てから半年になる。しかし、いまなお、連日は「香港の自由と民主主義の多くの感染者が確認されている。難が出ている。」

例年なら、今は夏祭りのシーズンだ。しかし、今年はこのうした行事もすべて中止である。この決議には、「中国は

## 暴走する中国とどう向き合うか

感染防止策の強化は大事だが、同時に、経済社会を通常の軌道に戻すことも必要だ。新型コロナ問題の対応で、政治は真価が問われることになる。

ところで、中国は6月に香港の統制強化を目的とした「国家安全維持法」を制定し



対中非難決議をまとめた自民党外交部会のメンバー。今後の日中関係はどうなるのか―8日、首相官邸

わなければならない。しかし、中国が強大な軍事力を持ち、日本の最大の貿易相手国であることも事実だ。日本は、巨大かつ暴走する中国とどう向き合っていくかが課題で、安全保障や経済などを中心に、基軸をしっかりと

ある比例代表定年制について触れたい。これは「衆院の比例代表候補者は原則として73歳未満とする」というもので、党内にはこの年齢制限について賛否両論がある。

賛成論者はこの定年制によ

り「若者に活躍の場が開ける」とする。しかし、反対論者は「今は人生百年の時代で、お元気に活躍している高齢者も多い」という。実際、過去を見ると高齢で活躍した政治家は少なくない。

元外相の中山太郎氏は、国会における憲法論議の推進に大きく貢献した。しかし、残念ながら比例代表定年制により政界を去った。

官房長官などを歴任した故後藤田正晴氏は70歳を過ぎてから、国鉄民営化など、歴史に残る業績を残した。長年の経験や実績があったからこそできたともいえる。

能力は年齢には関係ない。若者は「柔軟性とエネルギー」を、そして高齢者は「経験と知恵」を活用し、その結果は国民の判断に任せたらどうだろうか。

(自民党衆院議員)